

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 概 論	2	准教授 吉水清孝	3	水	3
◆ 講義題目	ヴェーダと古代インド思想				
◆ 到達目標	ヴェーダ時代から西暦紀元前後までの、一千年を超えるインド思想史のあらましを、古代聖典ヴェーダの宗教と仏教などの出家宗教との対比を軸にして理解すること。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>ヴェーダ、仏教、スメリティ（叙事詩・法典）の3分野を中心に、古代インドの世界観と人生観の変遷を以下の順序で解説する。01序；02インダス文明とアリア人侵入；03ヴェーダ文献と神話；04ヴェーダ祭祀；05祭祀をめぐる思弁；06ウパニシャッド（五火二道説まで）；07因果応報をめぐる諸思想（ジャイナ教含む）；08ブッダの伝記と戒律；09仏教教団と古代王朝；10アビダルマと大乘仏教；11二大叙事詩；12叙事詩の思想と『バガヴァッド・ギーター』；13サーンクヤ思想とアーユルヴェーダ；14-15インドの法典</p>				
◇ 成績評価の方法	(○) 筆記試験 [70%]・(○) 出席 [30%]				
◇ 教科書・参考書	既存のインド哲学史とは進め方をやや異にするので、教科書は用いない。 講義内容の要旨を毎回配布するので、出席を欠かさないこと、参考書は授業中に指示する。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 概 論	2	准教授 吉水清孝	4	水	3
◆ 講義題目	インド哲学とヒンドゥー教				
◆ 到達目標	西暦紀元前後からイスラーム教徒による北インド支配までの、一千年を超えるインド思想史のあらましを、バラモン教学・仏教哲学・ヒンドゥー教の三つを軸にして理解すること。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>初期中世インドに成立した各学派における存在と認識、および倫理と宗教の面での中心思想を、学派相互の影響関係と共に以下の順序で解説する。01古代インド思想史のまとめ（大乘仏教含む）；02初期中世インド史；03バラモン教学（1）：諸学派の概論；04バラモン教学（2）：言語の構成要素（文法学）；05バラモン教学（3）：語の認識から文の認識へ（文法学とミーマーンサー）；06バラモン教学（4）：聖典論と倫理（ミーマーンサー対仏教）；07バラモン教学（5）：ウパニャッド解釈学と一元論（ヴェーダーンタ）；08仏教知識論（1）：認識論・言語論と論理学の基礎；09仏教知識論（2）：論理学の応用；10ヒンドゥー教（1）：ヴィシュヌ神とその化身；11ヒンドゥー教（2）：シヴァ神と女神たち；12ヒンドゥー教（3）：ヒンドゥー教の儀礼；13ヒンドゥー教（4）：ヴィシュヌ教の神学；14-15ヒンドゥー教（5）：シヴァ教の神学</p>				
◇ 成績評価の方法	(○) 筆記試験 [70%]・(○) 出席 [30%]				
◇ 教科書・参考書	既存のインド哲学史とは進め方をやや異にするので、教科書は用いない。 講義内容の要旨を毎回配布するので、出席を欠かさないこと、参考書は授業中に指示する。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 基 礎 演 習	2	准教授 吉水清孝	3	水	5
◆ 講義題目	ヒンドゥー教文献入門				
◆ 到達目標	サンスクリット語によるヒンドゥー教の基本文献を読むことにより、初等文法で学んだサンスクリット語の活用と構文に習熟すると共に、デーヴァナーガリー文字と宗教文献の語彙を習得し、さらにヒンドゥー教の基本的思考法を理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Bhagavadgītā (『神の歌』岩波文庫に和訳あり) は、ヴィシュヌ神の化身であるクリシュナと人間アルジュナとの対話篇であり、現代においてもヒンドゥー教徒の代表的な聖典である。今学期はその第7章から第10章までを中心に講読をする。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。第1回：Bhagavadgītāの成立；第2回：VII、vv.1-10物質原理と精神原理；第3回：VII、vv.11-20ヴァースデーヴァ；第4回：VII、vv.21-30神への信と知；第5回：VIII、vv.1-10神を念ずる行為；第6回：VIII、vv.11-20神への到達；第7回：VIII、vv.21-28神道と祖道；第8回：IX、vv.1-10物質原理による世界創造；第9回：IX、vv.11-20神を念ずる種々の道；第10回：IX、vv.21-34神を念ずる者の帰趨；第11回：X、vv.1-10神の愛；第12回：X、vv.11-20神への問い；第13回：X、vv.21-30神の示現 (1)；第14回：X、vv.31-42神の示現 (2)；第15回：今学期のまとめ</p>				
◇ 成績評価の方法	(○) 授業での貢献度 [50%]・(○) 出席 [50%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
パ ー リ 語	2	非常勤講師 西村直子	3	水	4
◆ 講義題目	パーリ語入門				
◆ 到達目標	サンスクリットの知識を元にパーリ語の文献の研究に必要な能力を身につける。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>サンスクリット文法を基に、パーリ語への歴史的変化に注目しながら、基礎事項を学ぶ。Geiger, A Pli Grammar を参考にする。その後、Anderson, A Pali Reader を用い、具体的テキストに即して、文法事項を確認しながら原典を読む。必要な参考書、研究文献をその都度確認しながら、合理的な訓練に努める。</p>				
◇ 成績評価の方法	授業時間中に示される能力と取り組み方による。				
◇ 教科書・参考書	Geiger-Norman, A Pali Grammar (共同購入する)、D. Anderson, A Pali Reader (大学に必要部数が揃っているが、自分で持っていて後まで役立つ)。辞書、参考書等は授業の信仰とともに紹介する。簡単な文法概要を作ってコピーを配布する。				
その他：既成の概説書にない内容が中心となるので、授業内容と配布資料とに基づきレポートを提出すること。受講歓迎。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
チベット語	2	教授 桜井宗信	4	木	2
<p>◆ 講義題目 古典チベット語初級文法Ⅱ</p> <p>◆ 到達目標 古典チベット語によって著された文献の読解力を養成する。</p> <p>◆ 授業内容・目的・方法 チベット人学僧 Tāranātha の著した『インド仏教史』の訳読を行い、チベット語資料の文献研究に必要な基礎的語学力を養成することを目的とする。第9章冒頭から読み始める予定。 「歯応えのある」文章を相手にして、辞書の利用法の訓練も兼ねた十分な予習を行うことにより、読解力の深化を図る。</p> <p>◇ 成績評価の方法 () 筆記試験 [%]・() リポート [%]・(○) 出席 [70%] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30%]</p> <p>◇ 教科書・参考書 Tāranātha: 『インド仏教史』(コピーを配布する)</p> <p>その他: 「古典チベット語初級文法Ⅰの既習者であること」を履修要件とする。また使用すべき辞書については授業の中で紹介する。</p>					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
インド学各論	2	准教授 吉水清孝	5	火	3
<p>◆ 講義題目 インド哲学文献購読</p> <p>◆ 到達目標 サンスクリット語で書かれた学術書の多くは基本典籍の註釈という体裁をとるので、註釈文献の文体に習熟し、あわせてインド思想の諸側面を理解する。</p> <p>◆ 授業内容・目的・方法 バラモンの諸学派のうち最もヴェーダの伝統を重んじたミーマーンサー学派では、ヴェーダ文の解釈を通じて、言語の機能についての考察を深めた。今学期は、『ミーマーンサー・スートラ』第1巻第1章へのクーマリラ註の一部を読み、各種の知識手段と言語による認識に関する基本的学説がどのように形成されたかを考察する。</p> <p>◇ 成績評価の方法 (○) 授業での貢献度 [50%]・(○) 出席 [50%]</p> <p>◇ 教科書・参考書 コピーを配布する。</p> <p>その他: 出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。</p>					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 各 論	2	准教授 吉水清孝	6	火	3
◆ 講義題目	ヒンドゥー法典研究				
◆ 到達目標	サンスクリット語で書かれた学術書の多くは基本典籍の註釈という体裁をとるので、註釈文献の文体に習熟し、あわせてインド思想の諸側面を理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	ヒンドゥー法典を代表する『マヌ法典』には数多くの註釈が書かれたが、Medhātithi の註釈は、全体が現存する註釈としては最も古く、また詳細である。今学期は、『マヌ法典』第2巻冒頭にある法源論への Medhātithi 註を読み、社会生活における規範の根拠を中世のインド知識人がどのようにとらえていたかを考察する。				
◇ 成績評価の方法	(○) 授業での貢献度 [50%]・(○) 出席 [50%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 各 論	2	教授 桜井宗信	5	水	2
◆ 講義題目	bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読				
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。				
◆ 授業内容・目的・方法	チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の第3代管長を務めた bSod nams rtse mo の代表作『タントラ概論』(rGyud sde spyiḥi rnam gshag) の講読を通じてインドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・() リポート [%]・(○) 出席 [70%] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30%]				
◇ 教科書・参考書	rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa、『Sa skya 派全書』Vol.2 (東洋文庫刊)、pp.1-37				
その他：「古典チベット語初級文法 I の既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 各 論	2	教授 桜井宗信	6	水	2
◆ 講義題目	bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読				
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。				
◆ 授業内容・目的・方法	前セメスターに引き続きbSod nams rtse moの『タントラ概論』(rGyud sde spyiḥi rnam gshag)の講読を行い、インド・チベット密教学に関する知識の深化と古典チベット語読解能力の更なる向上を目指す。				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [70%] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30%]				
◇ 教科書・参考書	rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『Saskya派全書』Vol.2 (東洋文庫刊)、pp.1-37				
その他：「古典チベット語初級文法Ⅰの既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 各 論	2	非常勤講師 生井智紹	集中		
◆ 講義題目	菩提心思想の展開				
◆ 到達目標	後期密教に至るまで大乘仏教の核にある菩提心思想を系統的に概観する。				
◆ 授業内容・目的・方法	インド初期大乘から後期密教までの菩提心思想を、特に『華嚴経』、『大日経』などの各展開段階の主要テキストをたどりながら、系統的にとらえてみたい。最終的にはサンスクリット原典・チベット語・漢訳の資料を利用しながら、『菩提心離相論』のテキスト演習も行うつもりである。				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [70%] ・ (○) 出席 [30%] () その他 (授業中に示される理解度) [%]				
◇ 教科書・参考書	テキスト・資料は講義ノートのプリントを配布する。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 演 習	2	准教授 吉水清孝	5	火	2
◆ 講義題目	ヒンドゥー教神話文献講読				
◆ 到達目標	ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある神話をサンスクリット原典で読み、サンスクリット語解読の訓練を積むと共に、ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	ヒンドゥー教神話の一般的設定では、シヴァ神は女神パールヴァティーとの間に、息子としてスカンダ（韋駄天）をもうけることになっているが、初期ヒンドゥー教文献でのスカンダの出生はきわめて複雑である。今学期は、前年度に引き続きスカンダの出生を詳しく物語る現存最初の文献である叙事詩『マハーバーラタ』第3巻の該当箇所を講読する。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。				
◇ 成績評価の方法	(○) 授業での貢献度 [50%]・(○) 出席 [50%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。				
その他： 出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 演 習	2	准教授 吉水清孝	6	火	2
◆ 講義題目	ヒンドゥー教神話文献講読				
◆ 到達目標	ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある神話をサンスクリット原典で読み、サンスクリット語解読の訓練を積むと共に、ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。既存の日本語訳がないものを取り上げるが、英訳を配布し批判的に検討する。				
◆ 授業内容・目的・方法	『ヴィシュヌ・プラーナ』は、ヴィシュヌ信仰を一貫して説く比較的成立の早いプラーナであるが、編纂者はオーソドックスなバラモンであり、その第三巻では、四ヴェーダの伝承に関する伝説を集成している。今学期はこの章を読み、古代聖典ヴェーダが、中世の時代にどのように継承されたかを考察する。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。				
◇ 成績評価の方法	(○) 授業での貢献度 [50%]・(○) 出席 [50%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。				
その他： 出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 演 習	2	教授 桜井宗信	5	木	1
◆ 講義題目	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読				
◆ 到達目標	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、唯識派など大乘仏教の思想を理解する上でも必要欠くべからざる基本典籍である。</p> <p>この授業では前年に引き続き、同書の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読しVasubandhuの考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。</p>				
◇ 成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 [%] ・ <input type="checkbox"/> リポート [%] ・ <input type="radio"/> 出席 [70%] <input type="radio"/> その他（授業中に示される理解度）[30%]				
◇ 教科書・参考書	用いる基本資料は次の通り： ・梵文原典：ABHIDHARMAKOŚABHĀṢYA OF VASUBANDHU Chapter 1, Y.Ejima, 山喜房仏書林。 ・チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。 ・漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎釈論』（真諦訳）。 ※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。				
その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 演 習	2	教授 桜井宗信	6	木	1
◆ 講義題目	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読				
◆ 到達目標	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、唯識派など大乘仏教の思想を理解する上でも必要欠くべからざる基本典籍である。</p> <p>この授業では前年に引き続き、同書の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読しVasubandhuの考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。</p>				
◇ 成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 [%] ・ <input type="checkbox"/> リポート [%] ・ <input type="radio"/> 出席 [70%] <input type="radio"/> その他（授業中に示される理解度）[30%]				
◇ 教科書・参考書	用いる基本資料は次の通り： ・梵文原典：ABHIDHARMAKOŚABHĀṢYA OF VASUBANDHU Chapter 1, Y.Ejima, 山喜房仏書林。 ・チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。 ・漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎釈論』（真諦訳）。 ※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。				
その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					